

薩摩瀬地区の『復興まちづくりへの想い』について ～第1回懇談会の意見概要～

※ 第1回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所 道路	・確実な避難が大事。いつ避難するか、どこに避難するか。 ・早めに避難できる体制を町でも考えるが、市も示してほしい。 ・次に起こった時の避難方法（いつ、どこへ）を考えておく必要がある。 ・『まさか』で逃げ遅れた人がいる。
	避難誘導 要支援者対策	・避難困難者をどう支援するかが問題。 ・防災無線が聞こえなければ、情報を得られない。 ・浸水マップを作りました、配りましたで終わってはいけない。
生業 再生・ 住まい 再生	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	・自宅は全壊状態だが、判定は大規模半壊だった。周りの家はすべて全壊判定。浸水深 4 cmの差で罹災判定に差が出る。明確な基準を。もっと寄り添って考えてほしい。 ・庭に堆積土砂などがまだ残っているが、一人では何もできない。 ・下薩摩瀬は、“ゴーストタウン”になっている。まず戻ってきたのは 2～3 軒。その後 10 軒程度にまで戻り、明かりもポツポツ。 ・地区としての治水方策がわからないと、3 階建にするか等、どうすべきか考えられない。住宅ローンの問題（土地購入から 2 年以内でないと控除対象にならない）等もある。 ・嵩上げするのかしないのか、わからずに再建している家もある。早く方針を示してほしい。建てたくても建てられない。 ・出水期の 7～8 月の様子を見て、秋口から建築工事にかかることを考えている人もいる。 ・工事ができる人は保険金がある人で、お金がないと工事ができない。現実は厳しい。 ・浸水が 10 cmであっても断熱材の毛細管現象で水を吸い上げている。建材の規格も 1.8 mが基準になり、取り換えるにも費用が掛かる。基準（1m未満＝半壊、1m以上 1.8m未満＝大規模半壊、1.8m以上＝全壊）の見直しが必要ではないか。 ・人は水の無い所では生活できない。水害がある地域に住むには、ある程度『覚悟』が必要であり、各個人での対策も必要だ。 ・既に再建済みの人もいるので、嵩上げや移転の際には漏れないようにする必要がある。 ・一軒でも反対があれば、嵩上げなどの計画が進められない。 ・色々な所を見てここが良いと選んで住んでいる。個々の安全性を高められれば良いと思う。
	地域コミュニティ 地区への思い	・宝来町は町内の活動ができないので自治会館を公費解体して再建することに決めたが、町内会には再建費用がなく、費用を作るにしても手続きが面倒であり簡素化してほしい。 ・他の人との交流は心地よい。 ・現在、市外に住んでいる人も多く、どう考えているのか把握できない。 ・この土地に戻って来て大丈夫か、不安がある。 ・水は怖い。だが住みたいと思う。 ・ここに住まざるを得ない人も多い。ご先祖様、金銭面など。
治水・その他	治水	・球磨川の掘削が第一である。しかしながら、万江川、御溝川など、支川の対策も必要だ。 ・河床掘削した土で盛土できないか。 ・水害の検証結果を教えてください。 ・水害が起これないようにすべきではないか。球磨川の流量を減らしてはどうか。 ・球磨川の流れを良くすること、狭窄部を拡げるのが、手っ取り早い解決方法だと思う。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.1

薩摩瀬地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第1回・第2回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。
薩摩瀬地区の**対象地区は、宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、下城本町**です。

◆第1回地区別懇談会

1 復興計画、復興まちづくり計画についての説明

- ・復興計画等の概要説明
- ・重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方
- ・これまでの校区别座談会の概要

2 地区ごとの話し合いと全体共有

- ・顔合わせ、自己紹介（想いや困り事など）
- ・次回日程や宿題、連絡体制や参加者の声かけ



4月15日（木）14時から、下戸越町公民館

◆第2回地区別懇談会

1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

- ・前回懇談会の振り返りと情報提供
- ・治水対策とまちづくり・避難の考え方
- ・復興まちづくりに係る各種支援制度や事例の紹介

2 地区ごとの話し合いと全体共有

- ・出水期に向けた避難等のあり方
- ・復興まちづくりへの具体的な課題と方向性
- ・今後の進め方、次回日程調整、連絡体制の確認



5月10日（月）18時から、西瀬小学校体育館

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただけます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・4～10月までの間に、概ね月1回（合計8回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：第3回 6月7日（月）18時30分より

次回のテーマ予定：復興まちづくりの課題と方向性について

会場：西瀬小学校体育館

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・**住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。**
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）

薩摩瀬地区の具体的な『出水期に向けた避難等のあり方』や『復興まちづくりへの課題や方向性』について

～第2回懇談会の意見概要～

※ 第2回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目		出水期に向けた避難等のあり方 復興まちづくりへの具体的な課題や方向性について
避難等のあり方	避難場所	・指定避難所はスポーツパレスである。 ・一時避難所として公民館を使用する。 ・万江川を越えるのが怖い、中原小学校へ避難する。 ・ペットや高齢者のいる家族を受入れる避難施設が必要。 ・避難者の分散化が必要。避難所のあり方を考える。 ・公民館の 2 階に避難所を作ったり、避難タワーを作ればどうか。 ・一番安全な場所は村山公園しかない、最初から村山へ逃げる。 ・平屋住宅は緊急時でも自宅で垂直避難できない可能性がある。 ・避難所のキャパシティがリアルタイムでわかると良い。 ・鉄道を北側に超えると避難できる。 ・歩いて行ける所に避難所を作る。
	避難ルート	・消防署から村山台地へのルートは、浸水時に難しい。 ・車両が多く、道が通れないこともある。 ・校区を越えた中原校区へ国道 219 号経由で避難。 ・国道 219 号は濁流。橋が通れるなら渡って南側へ。 ・J A 横の御溝は越流するので現実的ではない。西ではなく東へ逃げるべき。 ・公道だけではない避難ルートとして、イザという緊急時には民間敷地も通れるようにする。 ・相良町、宝来町は西間へ。 ・避難誘導道路の選定をすべき。 ・次回どう逃げるかを考えても無意味ではないか。
	避難誘導 要支援者対策	・避難経路も大事だが、「まず避難しなさい」の声が各戸に確実に届くようにすべき。戸別受信機配布を急いでほしい。 ・空振りになっても構わないので、前日明いうちに避難呼びかけをする必要がある。 ・防災無線の声が聞こえない人の避難をどうするか。聞こえるような放送を。 ・防災無線ではなく、サイレン吹鳴の方が分かりやすくて良い。 ・要支援者の避難、自動車の運転ができず歩くのも大変な高齢者への対応をどうするか。近くに避難所を作るべきではないか。 ・公民館に一次避難し、そこから自動車で移動するには駐車場が足りないため、各自がめいめいに逃げ、町内会長が LINE 等で安否を確認するしかない。 ・要支援者への対策・対応は町内支援ネットワークの「サポーター」があたるが、無理せず自分の身の安全を守る必要がある。 ・遠隔の親族には、「町内のこの人に支援してもらおう」ということを伝え共有しておく。 ・ボートは一度に多人数を救助できる。
復興課題や方向性へ	住まい再建 生業再建	・平屋でないと資金面等から再建できない。
	治水 土砂対策	・第 2 放水路ができれば御溝川が溢れることがましになるかもしれない。

